

研修記録

引率（下関市総合政策部国際課） 神田 剛

【1】1日目 8月1日（水）



5回の事前研修会、副市長への挨拶を終え、いよいよ出発当日を迎えました。出発式は早朝7時から。市関係者、国際ソロプチミスト東下関、団員所属校の校長先生、団員ご家族が見守る中、能野団長、藤本団員が代表して研修にかかる意気込みを存分に述べてくれました。出発式が終了し、いざ出発となると、保護者のいない初めての海外研修！期待と不安の入り混じった

複雑な表情で新幹線に乗車し、米国へ向けての第一歩を踏み出しました。

新下関駅から福岡空港まで約1時間。普段は両親が持ってきているであろう重たいトランクを転がしながらの大移動。もちろん、エスカレーターにスーツケースと一緒に乗ることも初体験のため、思わず通路をふさいでしまう団員も。通勤で急いでいるサラリーマン達の視線を受け、エスカレーターの乗り方を注意され道を譲る、ちょっとした社会勉強をしながら、何とか遅滞なく福岡空港に到着しました。一安心♪

海外が初めての団員もいたため、まずは福岡空港国際線ターミナルの大きさ、人の多さにびっくり!! チェックインカウンターで荷物を預けて一安心したところで、団員のほとんどが荷物に「両替したドル」を入れていることが判明し、またびっくり!! 「海外では貴重品は肌身離さず持つておく、これ常識。お金は貴重品だよね!」と、添乗員さんから厳しく注意を受けていました。

今回の研修は、韓国仁川国際空港で乗り継ぎです。米国の法律の改正により、渡米する旅行者専用の入国検査場が新設されており、予定していなかった英語での簡単な上陸検査を受けたり、学生特有の大きな筆箱も仲良く持ち物検査で引っ掛かったり、韓国上陸も一苦勞でした。上陸した仁川で約4時間の待ち時間の間



にプレゼンテーションの最終調整を行い、つかの間の韓国を満喫して、いざサンフランシスコ国際空港へ！仁川空港から飛行機で約11時間、長時間のフライトで体調を崩す団員もなく、サンフランシスコ国際空港に到着しました。入国審査は個別に受けるため、審査時間が長い団員、すぐに終わる団員、何がどう違うのかはわかりませんでしたが、ある団員は審査に10分程度かかりました。頑張っって一人で乗り切った入国審査は自信につながるよい経験になったと思います。

入国検査を終え、やっとの思いでアメリカ上陸。時差が-16時間のため、現地では日本を出発した8月1日のお昼でした。飛行機が1時間遅れたため、貸切バスに乗り、食事もとらずに急いで訪問予定の「在サンフランシスコ日本国総領事館」へ。



在サンフランシスコ日本国総領事館

高層ビルの一角にある領事館に到着し、時差でちょっとボーっとしていた団員の目にも力が戻りました。青野副領事から領事館の業務、カリフォルニア州やサンフランシスコ市の性格等について丁寧にご説明いただいた後、自分たちの課題について日本語で質問できる最後の機会ということで、積極的に質問をしていました。

講義が終わり、全員で記念撮影。21階

に位置する領事館からの眺めは最高でした。

再び貸切バスに乗り、ピッツバーグ市に向かう途中、スーパーに寄って簡単に食事をしようということで一旦下車。さっきは気づかなかった、20度くらいの肌寒い気温にびっくりしました。店に入り、初めての米国のスーパーに興味津々の団員たちは、なかなか昼食が決まりません。バスに戻り、各自がカゴに入れて買ったはずなのに、支払いを終えて配ると数が足りない！?



サンフランシスコのスーパーマーケット

というトラブルもありましたが、大国に来たのだから小さいことは気にせず、車窓からカリフォルニアのすばらしい景色を見ながら、ピッツバーグ市に移動しました。

18時にはピッツバーグ市役所に到着。バスを降りると肌寒かったサンフランシスコとは打って変わって、夕方にも関わらず30度を超えるじりじりと焼けつくような暑さで、車で1時間圏内の距離であるはずなのに気候の違いに驚きました。市役所に着くと出迎え



ホームステイ先に移動

てくれたピッツバーグ市担当のコレットさんと挨拶と翌日の集合時間などの簡単な打ち合わせをして、団員達は順次お迎えに来るホストファミリーに連れられて、滞在中の自宅となるステイ先に向かい、長い長い第1日目を終えました。

【2】2日目 8月2日（木）

米国2日目はピッツバーグ市役所からのスタートです。初日のホームステイを終えた団員達は元気に合流。市議会議場に招かれピート・ロングマイヤー市長から歓迎の言葉をいただき、団長の挨拶の後、早速、来場者の前で下関のプレゼンテーションを行いました。出発前から、団員みんなで考えて、パワーポイント・読み原稿を英語で作成し、何度も反覆して練習した甲斐もあり、笑いととも



プレゼンテーション

に沢山の拍手をいただき、成功裡にプレゼンテーションを終えることができました。市から沢山のプレゼントをいただき、記念に一人ひとり議長席に座って「ガベル（木槌）」を叩く体験もさせていただきました。コツがあるようでうまく良い音は出せませんでした。二度とないような経験ができ、満面の笑みでの写真がたくさん撮れました。



ピッツバーグ市警察署見学

市議会議場を出て、市役所に併設している「ピッツバーグ市警察署」の見学をしました。偶然にも会議出席のために入り口にいらっしゃった署長さんと記念撮影をした後、街を監視するモニター室や証拠品の保管場所、取調室、臨時拘置所等を案内してもらい、団員達は普段見ることのない警察内部に興味深そうに見学していました。なかでも、「拘置所内は冷たいコンクリート、毛布等の貸し出しは一切ない」との話聞き、「日本では毛布や簡易ベッド程度はある」

との話をすると、「なぜ罪を犯した者にそんなサービスが必要なのか」と不思議な顔をされたことがとても印象的でした。



ランチョ・メダノス中学校

続いて、「ランチョ・メダノス中学校」を訪問しました。ピッツバーグ市に3校ある中学校の1つです。夏休み中にも関わらず、教諭と学生が出迎えてくれ施設の案内をしてくれました。広い敷地に整備された開放的な施設、充実した設備が目にとまりました。

次に訪れたのが、「ピッツバーグ高校」。市内唯一の高校ということで、生徒数はな

んと3,000名超。広大な敷地に施設が配置され、高校というよりは大学施設に近いイメージです。競技場は、下関陸上競技場と同程度の規模でした。この高校はマーチングバンドが有名で、チャリティー等で集めた資金を基に海外公演を行っているそうです。訪問した時期は、新チームとなり練習開始から間もないという話でしたが、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。昨年、下関市にホームステイに来た学生もメンバーとして在籍しており、元気な姿を見せてくれました。



ピッツバーグ高校マーチングバンド



1周年の記念品「ふくの銅像」

ウォーターフロントサイドで、昼食をとった後、1999年11月16日に姉妹都市締結1周年記念の証として、下関市からピッツバーグ市へ送られた「ふくの像」を見に行きました。贈呈後20年経った今も、青空の下、憩いのスポットとして親しまれています。今年で19回目となる派遣研修団ですが、建立後、すべての団が記念撮影をしたスポットです。もちろん今回も記念

撮影を行いました。

その後、「カリフォルニア劇場」を見学しました。この劇場は、1920年に建設され1954年に閉館したが、強い要望もあり1994年に内装の修復、2009年に外観の改修を終えた、今も存続し続けている現役の劇場です。入館し、ステージに上がった団員

は気分が乗ってきたのか、3曲も歌を披露してくれました。

劇場を出て、表通りで開催されている自動車ショーを見学後、本屋で待ち合わせをしてステイ先に帰宅しました。



【3】3日目 8月3日(金)



3日目は、隣街でホームステイをしていた埼玉県秩父市の訪問団とのプチ交流会から始まりました。秩父市は、国際交流協会主催の事業で、40年も事業が続いているとのこと。毎年中学生5名と引率の協会員が訪れ、全員がホームステイをするそうです。当日は、朝食のみの交流でしたが、遠くアメリカの地でホームステイをしている日本人団体と出会うことができ、僅か

渡米3日目ですが何となく日本を恋しく感じました。

さて、朝食をすませてから高速鉄道BARTに乗り、「カリフォルニア大学バークレー校」の視察に行きました。カリフォルニア大学バークレー校は、1868年に創設されたカリフォルニア大学の発祥の地で、現在10校あるカリフォルニア大学の本校にあたります。約26,000人の学生が在籍しており、公立大学では米国でスタンフォード大学と1,2を争う世界的な名門大学の一つです。バークレー校は、化学に関する研究が有名で、ノーベル賞受賞者を70名以上輩出しています。



ピッツバーグ市役所の近くに新設されたピッツバーグセンター駅からBARTで約40分、バークレー市のダウンタウンバークレー駅で下車します。

バークレー市に到着後、まず大学前の「スターボックス」へ。外見は日本とさほど変わりはありませんでしたが、注文時に名前を聞かれ、店員さんがカップに名前を記入します。商品が完成し、受け取り時には各々の名前が呼ばれるので、カウンターで商品を受け取る



スターバックス店内

という仕組みです。サイズは日本よりも一回り大きい様でした。米国も3日目、団員達は慣れた様子で購入していました。

飲み物を購入し、いよいよ、バークレー校の見学に出発です。校門をくぐるとそこはまるで公園のように開けた空間が。1868年の創設時に植樹されたユーカリの木が立派に育ち森のように生い茂っ

ています。空気も澄んでおり、すがすがしい気分で構内を進んでいきました。

最初に訪れたのは「自然史博物館」です。巨大な恐竜の骨格標本を始めとする、様々な生命に関する展示がされており、さながら有名な博物館の様でした。続いて訪れた「総合図書館」では美しい棚に整然と並ぶ図書の数々、静粛に学習に取り組む学生達の姿がありました。バークレー校には総合図書館を始め39もの図書館があり、テスト期間中にはそれが24時間開放され、また校内は無料WIFIが整備されているそうです。

図書館を出て「時計台」に向かいました。時計台はバークレー校のシンボルの一つで、時計台の上からはバークレー市内はもちろんサンフランシスコ市内も見渡すことができるそうですが、あいにく工事中であったため上ることができませんでした。



バークレー校の構内



バークレー校自然史博物館

キャンパスをいったん出て、近所のホットドッグ店、ピザ店にてテイクアウトで昼食を済ませ、午後からも構内の様々な場所を視察しました。その後、校門前にある「美術館」を見学して、駅近くのショップへ。生協が休業であったためグッズの購入ができないかと心配しましたが、カリフォルニアグッズの専門店がほかにもあるということで一安心でした。広大な敷地を半日

以上歩いたため少々疲れ気味な団員でしたが、ショップでは家族や友人へのお土産を疲れも忘れて買っていました。グッズを購入した後、再びBARTでピッツバーグへ。アメリカの鉄道は料金の支払いが難しいようで、到着してから改札を通るまでに10分位待たされました。その間、バークレーよりも10度以上高いピッツバーグの暑さが身に堪えました。

【4】4日目 8月4日(土)



米国4日目、サンフランシスコにホストファミリー、来月下旬に訪問予定である学生達と視察に行きました。サンフランシスコに到着し、車窓から外を眺めていると、半袖短パンの人と薄手のダウンジャケットの様なジャンパーを着た人、暑いのか寒いのかわからない服装の人混みが目に入りました。ほとんどが観光客であるためなのでしょうが、服装の季節感のなさに驚きました。もちろん我々は長袖仕様です。バスを降り、まず最初にピア15にある「科学博物館」を訪問しました。ここは体験型の博物館で、どの作品にも自由に触れることができ、様々なジャンルの学習を深めることができる教育型の施設です。夏休みということもあり、親子の観覧客で溢れかえっていました。

博物館を出て、食事のため徒歩でピア39へ向かいました。室内は適温でしたが外に出ると海からの風が冷たく、長袖の上着をすぐに着用。ピア39に着くと、まずは昼食。ハンバーガーやピザ、フィッシュアンドチップス等をテイクアウトし、団員は座る場所もないので、立ったまま手早く食事を済ませ、買い物へと消えていきました。見渡す限りの観光客



でごった返す場所であるにも関わらず、観光客の使用できるトイレは1ヵ所しかなく、長い行列ができていました。集合時間までは自由時間ということで、お店以外を散策して見ました。ボードウォークには沢山の大道芸人たちがチップ入れを置いて、芸を披露していました。海に向かって左側にはフィッシャーマンズワーフが広がり、右手の奥はヨットハーバーになっています。フィッシャーマンズワーフ側に向かって歩いて行くと男性から何かをもらいました。日本でティッシュをもら



らう感覚で受け取ってしまい、少し歩くと男性二人組に呼び止められ受け取ったものを指差しています。改めて見ると配られたものはCDで「俺は有名なミュージシャンだ。一緒に写真撮ってやる。お前の携帯でも写真を取ってやる。CDはたった1ドルで売ってやる」と言い寄られました。そ

の時初めて「これはまずいやつだ」と気付いた私は、CDを返して必死に断り、事なきを得ました。後で添乗員さんにその話をすると「アメリカに無料でくれるものはありません!!」と笑われ、初めてのアメリカで私もよい？経験をしました。



アルカトラズ島

話が逸れましたが、ボードウォークを歩いて行くと、またまた観光客の大行列を見つけました。行き先を見るとアルカトラズ島への渡船でした。アルカトラズ島は、1963年まで連邦刑務所として稼働していましたが現在は国立レクリエーション地域の歴史地区として、一部一般公開されています。時間が許せば見たいスポットでしたが今回は見送りです。集

合時間となり、大量のお土産を抱えた団員達と合流し、ピッツバーグ市へと戻りました。

【5】5日目 8月5日(日)

5日目、この日は1日ステイ先で自由行動、夕方から「プールパーティー」です。17時頃から会場の昨年下関でホームステイした学生宅に集合。翌日のBARTのチケットを購入し、団員と合流した時には既に大はしゃぎで、プールに卓球、バスケット、思い思いに楽しんでいました。日本では豪邸にしかないイメージのプールですが、航空写真で見るとアメリカ



プールパーティー会場

では結構普通に設置してあるようです。ひとしきり遊んだ後、準備してきた日本文化を紹介する時間になりました。浴衣組と法被組に分かれて衣装替えをし、書道と日本の伝統的な遊びを紹介です。日本の伝統文化紹介では、準備した駄菓子を配ったり、竹とんぼ、お手玉、けん玉をしたりして一緒に遊びました。書道に関しては、扇子と団扇に筆で漢字



日本文化紹介

の名前を書いて記念に差し上げました。特に書道は大人気で準備した扇子や団扇が足りなくなるのではないかとこの程注文が殺到し、終了予定時刻を大幅にオーバーしてしまい、終わる頃には外は真っ暗、慌てて後片付けをしての帰宅となりました。時間をかけて準備をした出し物すべて披露し終わり、参加者にも大変喜んでいただ

きました。異文化交流として今回の研修で最高に良い時間であったと同時に、明日には帰国しなければならないという名残惜しさも押し寄せてくる時間でもありました。

【6】6日目 8月6日（月）



米国での最後の朝を迎えました。名残惜しい朝なのに、空は澄み渡り、とても爽やかな朝でした。思えば、この一週間天気にも恵まれ一滴の雨も降らず、曇りの日すらありませんでした。私たちの到着直前までは、山火事が続き、空気が悪く、空は灰色という前情報でしたが、素晴らしい天気でした。集合場所のピッツバーグセンター駅には、沢山のホストファミ

リーが見送りに来てくれました。列車の時間があるため急いで移動する必要があるのですが、名残惜しく足はなかなか前に進みません。団員たちは、団長・引率ら大人に急かされながら、振り返り、手を振り、何度も別れの挨拶をしながら、駅の構内に入りました。BARTに乗っても、思いは尽きず、もらった記念品を眺めている団員もいました。

BARTで1時間、サンフランシスコ国際空港に到着し、空港での手続きもスムーズに終わりました。行きの飛行機と違い、一度長時間飛行を経験しているため特に問題もなく、団員達はリラックスしてピッツバーグでの時間を振り返っていました。

【7】7日目 8月7日（火）

帰りの日付変更線は+16時間、あっという間に8月6日は終わってしまいました。韓国仁川国際空港で乗り換え、定刻の20時に福岡空港に到着しました。飛行機を降りるとジトつとした湿気の多い日本の夏、カラッとしたカリフォルニアの夏とは大違いです。「ベトベト」という声を聞きながら、日本に入国です。日本、韓国、米国で計5回も検査を受けているの



で、入管・税関ともに、とてもスムーズに通過です。福岡空港からはバスに乗り、下関市に向かいます。バスでは疲れて寝るのかと思いきや、音楽をかけて、みんなで歌を歌いながらの帰関、最後まで元気で仲良しでした。到着した下関駅では、笑顔とともに安堵の表情を浮かべた団員の御家族の出迎えがありました。能野団長と杉山団員の素晴らしい挨拶で米国研修の締め括りです。久しぶりに見た団員達は少しは大きくなったのでしょうか？